



 当院 OB 鷲田先生と奥様が
「ソテツの鉢植えの寄付」の為、来院されました。

8月24日(木)14時、当院 OB 鷲田哲雄先生と奥様が“ソテツの鉢植えの寄付”の為に、来院されました。今回寄付して下さったソテツは、旧国立病院正面玄関前にあったもので、当時は国病(旧名称)のシンボルだったそうです。

鷲田先生は、平成24年秋に正面玄関前のソテツの赤い実を採取し、その実を苗床に植え、翌年25年春に発芽したものを鉢に植え替え、若木に育てられました。先生は旧国病に思い出が多く、愛着もあり、全部消えてしまうのがさみしいので育てておられました。今回、このソテツの若木を当院谷本院長のもとへ届けて下さいました。寄付が行われた院長室では、鷲田先生と奥様、谷本院長とでソテツや旧国病についての話がはずみました。

鷲田先生によると、「ソテツには赤い実がつき、大きくなるのにとっても時間がかかります。この若木の鉢植えはしばらく鉢で育て、ある程度大きくなったら植え替えたらいいですよ。鉢植えは日当たりの良い所で管理して下さい。」とのことでした。「ソテツは素朴ですが、力強く成長していく姿が魅力的です。ソテツは根が強く張るように伸びて、およそ30年で30～40センチ位の高さになり、未永く成長します。このソテツも新病院に帰ってきて、喜んでいと思います。」とのこと。

谷本院長は、「昔の病院のものがあまりなく寂しかったので、これはいいですね。しばらくは鉢で育て、どこに植え替えるかはまた連絡します。」と伝えました。

鷲田先生とソテツによって旧国立病院から現在の岩国医療センターにつながる縁・・・立派に育ててほしいと思います。



【鷲田先生(右)と谷本院長】



【旧国病のソテツの
あった場所は…】



【ソテツを通して会話もはずむ】

